corega®

CF-M56D

取扱説明書

http://www.corega.co.jp/

PN J613-M7095-00 Rev.A 011022

安全のために

必ずお守りください

警告

下記の注意事項を守らないと**火災・感電**により、**死亡や大けが**の原因となります。

分解や改造をしない

本製品は、取扱説明書に記載のない分解や改造はしないでください。火災や感電、けがの原因となります。

分解禁止

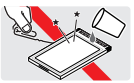
雷のときはケーブル類・機器類にさわらない

感電の原因となります。

雷のときはさわらない

異物は入れない　水は禁物

火災や感電の恐れがあります。水や異物を入れないように注意してください。万一水や異物が入った場合は、電源プラグをコンセントから抜いてください。（当社のサポートセンターまたは販売店にご連絡ください。）



異物厳禁

湿気やほこりの多いところ、油煙や湯気のあたる場所には置かない

内部回路のショートの原因になり、火災や感電の恐れがあります。

設置場所注意

注意

下記の注意事項を守らないと**けが**をしたり、周辺の**家財に損害**を与えたりすることがあります。

高温注意

本製品の使用直後は高温になっています。不用意に触ると、火傷の恐れがあります。

高温注意

運搬時の注意

本製品をWindows CEマシンのカードスロットに装着したままでWindows CEマシンを運搬するときには必ず付属のケーブルを外してください。

ケーブルを外せ

ご使用にあたってのお願い

次のような場所での使用や保管はしないでください。

・直射日光の当たる場所
・暖房器具の近くなどの高温になる場所
・急激な温度変化のある場所（結露するような場所）
・湿気の多い場所や、水などの液体がかかる場所（湿度 80%以下の環境でご使用ください）
・振動の激しい場所
・ほこりの多い場所や、ジュータンを敷いた場所（静電気障害の原因になります）
・腐食性ガスの発生する場所

静電気注意

本製品・ケーブルは、静電気に敏感な部品を使用しています。部品が静電破壊する恐れがありますので、コネクターの接点部分、ポート、部品などに素手で触れないでください。

取り付け・取り外しのときの注意

Windows CEマシンのカードスロットに本製品を取り付ける作業は､必ず本マニュアル及び､ご使用のWindows CEマシンのマニュアルを参照の上、正しく行ってください。

長期保管時は袋に入れて

本製品を長期にわたって保管する場合は、必ず添付の袋（静電防止）または専用ケースに入れてください。

取り扱いはていねいに

落としたり、ぶつけたり、強いショックを与えないでください。

お手入れについて

清掃するときは電源を切った状態で

誤動作の原因になります。

機器は、乾いた柔らかい布で拭く

汚れがひどい場合は、柔らかい布に薄めた台所用洗剤（中性）をしみこませ、堅く絞ったものでふき、乾いた柔らかい布で仕上げてください。

ぬらすな　中性洗剤使用　堅く絞る

お手入れには次のものは使わないでください

・石油・みがき粉・シンナー・ベンジン・ワックス・熱湯・粉せっけん
（化学ぞうきんをご使用のときは、その注意書に従ってください。）

シンナー類不可

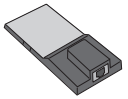
はじめに

この度は、「corega CF-M56D」をお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。この取扱説明書（保証書付）は、本製品を正しくご利用いただくための手引きです。必要なときにいつでもご覧いただくために、大切に保管くださいますようお願いいたします。

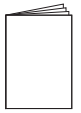
内容物をご確認ください

本製品パッケージの内容は、下記の通りです（下記以外に添付紙が同梱されている場合があります）。お買い上げ商品についてご確認いただき、万一不足するものがございましたら、お手数ですが、弊社サポートセンターまでご連絡ください。

- corega CF-M56D本体



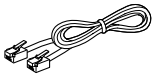
- 取扱説明書/保証書（本書）



- シリアル番号シール

- 携帯用ケース

- RJ-11 モジュラーケーブル（1本）



アナログ一般公衆回線以外の回線には接続しないでください

注意 本製品はアナログ一般公衆回線に接続して使用するように設計されています。ISDN、ビジネステレホン、ホームテレホンシステムには接続できません。また、PBX（構内交換機）をお使いの場合は交換機の種類によっては本製品が壊れることがあります。

国外では使用しないでください

注意 本製品は日本国内専用です。日本国内の技術基準に適合して製造されていますので、国外でご使用になられた場合、本製品および他の機器を壊す恐れがあります。また、当該国の法令に抵触する場合があります。日本国外での使用については、ユーザーサポートの対象外とさせていただきますので、予めご了承ください。

目次

はじめに 4
内容物をご確認ください 4

1 概要 7
1.1 特長 7
1.2 対応コンピューター機種 7
1.3 対応オペレーティングシステム 7
1.4 各部の名称と働き 8
1.5 通信に関するご注意 9
1.5.1 使用回線について 9
1.5.2 PBX 回線について 9
1.5.3 電話回線の種類 10
1.5.4 キャッチホンについて 10
1.5.5 56000bps での通信速度について 11
1.5.6 リダイヤルについて 11

2 ハードウェアの設定 12
2.1 CF カードの挿入・取り外し 12
2.1.1 CF カードの挿入 12
2.1.2 CF カードの取り外し 14
2.2 電話回線への接続 16

3 接続の準備 17
3.1 ポケット PC の場合 18
3.1.1 モデムの設定 18
3.1.2 接続先電話番号の設定 22
3.1.3 ダイヤル方法の設定 24
3.2 ハンドヘルド PC の場合 25
3.2.1 モデムの設定と接続先電話番号の設定 25
3.2.2 ダイヤル方法の設定 31

4 インターネットへの接続と切断 33
4.1 インターネットへの接続 33
4.1.1 ポケット PC での接続 33
4.1.2 ハンドヘルド PC での接続 37
4.2 接続の切断 40
4.2.1 ポケット PC の場合の切断 40
4.2.2 ハンドヘルド PC の場合の切断 42

5 トラブルシューティング 43
5.1 ドライバーのトラブル 43
5.2 通信がうまくいかない 43
5.3 56000bps で通信できない 44
5.4 文字化けが起こる 44
5.5 モデムがコマンドを実行しない 45
5.6 電話がかかってきてもモデムが応答しない 45
5.7 インターネットに接続できない 45

付録 47
A 製品仕様 47
B 電話回線インターフェース 48
C 用語集 48
D 保証と修理について 49
E ユーザーサポート 50
おことわり 52
調査依頼書 53
製品保証規定 55

1 概要

1.1 特長

corega CF-M56D（以下、本製品と表記）は以下の特長をもつデータ通信用のモデム PC カードです。

- CF+/CompactFlash Rev1.4 Type I 準拠
- V.90 対応
- Hayes AT コマンド準拠
- コネクター部とカード部が一体化し、ケーブルを直接挿し込み可能
- Plug & Play に対応

  Plug & Playは、これらの機能に対応している Windows CEマシン、オペレーティングシステム（OS）のもとでご使用になれます。

1.2 対応コンピューター機種

本製品は、コンパクトフラッシュカードスロット搭載の PDA、ハンドヘルド PC に対応しています。これらの機種を本書では Windows CE マシンと記述します。また、本書ではコンパクトフラッシュカードを CF と記述します。

1.3 対応オペレーティングシステム

本製品は、Windows CE 3.0（Pocket PC/Handheld PC2000）に対応しています。

1.4 各部の名称と働き

図 1.4-1 ～図 1.4-2 をもとに各部の名称と働きを説明します。

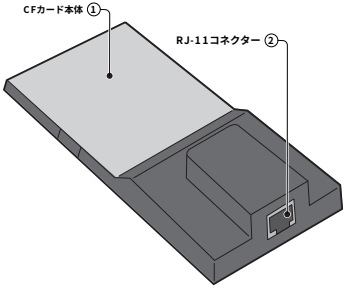


図 1.4-1 CF-M56D 外観図（上面）

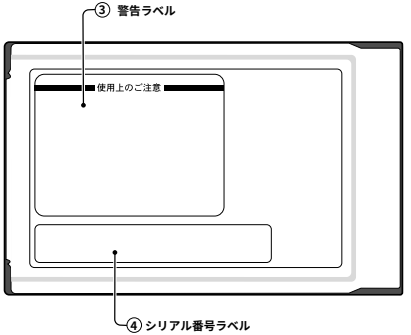


図 1.4-2 CF-M56D 外観図（裏面）

① CF カード本体

Windows CE マシンのカードスロットに挿入し、モデム機能を提供します。

② RJ-11 コネクター

モジュラーケーブルを接続するコネクターです。

③警告ラベル

本製品を安全にご使用いただくための重要な情報が記載されています。必ずお読みください。

④シリアル番号ラベル

本製品のシリアル番号（製造番号）とリビジョンが記入されています。同じものが、3 枚ほど同梱されており、パッケージ（外箱）にも貼付されています。同梱されているシリアル番号シールは、「製品保証書」に貼付してください（残る 2 枚は予備です）。シリアル番号とリビジョンは、ユーザーサポートへの問い合わせ時に必要な情報です。

1.5 通信に関するご注意

1.5.1 使用回線について

◆使用できない回線◆

本製品はアナログ一般公衆回線（住居用回線・普通の公衆回線など）専用に作られています。以下の電話・電話回線には基本的にはご使用になれません。ただし、別途アダプター等付加装置を使用すれば使用できるものもありますので、詳しくは管理者または保守業者にお問い合わせください。

- PBX（構内交換機）※ 1
- ホームテレホン
- ビジネスホン
- ISDN デジタル回線
- 4 線式ボタン電話（内線機能つき）

◆移動体通信には接続できません◆

本製品を移動体通信（携帯電話・PHS）に接続することはできません。市販の携帯電話接続コードを接続しても通信はできません。

1.5.2 PBX 回線について

本製品を PBX 回線（構内交換機）でご使用になるには、PBX回線の仕様が以下の仕様を満たしていることが要求されます。（さらに条件が必要な場合もありますので、必ず管理者または保守業者にご確認ください。）

- 2 線式の回線であること
- 「0」（またはそれ以外の番号）発信で外線に接続できること
- 音声信号に使用している回線の仕様が ＮＴＴ のアナログ一般公衆回線と同じであること

以上の条件を満たしている場合は、ご使用になれます。

※ 1. ただし、PBX の回線仕様によっては使用できます。「1.5.2 PBX 回線について」をご参照ください。詳細はPBX のメーカーにお問い合わせください。

実際のご使用にあたっては、"X3" コマンドの実行（ダイヤルトーンを待たずに発信する）が必要です。設定および実行については次の章を参照してください。

・ポケット PC の場合

「3.1.2 接続先電話番号の設定」

1

・ハンドヘルド PCの場合

「3.2.1 モデムの設定と接続先電話番号の設定」

1.5.3 電話回線の種類

電話回線にはいろいろなものがあります。接続する電話回線の種別をご確認の上、正しく設定してください。（ポケット PC →「3.1.3 ダイヤル方法の設定」、ハンドヘルド PC →「3.2.2 ダイヤル方法の設定」）

◆プッシュホン回線
電話をかけるときに「ピッポッパ」と音がする場合はプッシュホン回線です。この場合の信号は「トーン信号」です。

◆パルスダイヤル回線（ダイヤル回線）
電話をかけるときに「プツプツプツ…」と押した数字の長さに応じた音がする場合はパルスダイヤル回線です。パルスダイヤル回線には 10pps と 20pps の 2 種類があります。※1 どちらの pps かをご確認の上、該当する「パルス信号」に設定してください。詳しくはお近くの NTT にお問い合わせください。

1.5.4 キャッチホンについて

NTT のキャッチホンサービス（「キャッチホン Ⅱ 」ではありません）を受けている場合、データ通信の最中に電話がかかってきた場合にはキャッチホンの呼び出し音により接続が断たれてしまいます。
データ通信に使用する回線はキャッチホンサービスを受けていないものを使用するか、あるいは「キャッチホン Ⅱ 」をご利用ください。
詳細はお近くの NTT にお問い合わせください。

注意 「ダイヤルのプロパティ」に用意されている「キャッチホン機能の解除」および「ダイヤル」は「キャッチホンⅡ」でのみ有効です。

※ 1. 工場出荷時は「10pps」に設定されています。

1.5.5 56000bps での通信速度について

ITU-T 標準の V.90（56000bps）は、下り方向（プロバイダーからユーザーへ）のみ従来の V.34 規格（33600bps）を超える速度で通信が可能な規格です。ただし、プロバイダーのアクセスポイントが同規格に対応し、なおかつ電話局のデジタル交換機からプロバイダーまでの経路がデジタル化しているなどの条件を満たしている必要があります。56000bpsは、理論値であり、実際の通信速度とは異なります。上り方向（ユーザーからプロバイダーへ）での最高通信速度は、33600bps になります。また、FAX での通信最高速度は、上り、下りとも 14400bps になります。

1.5.6 リダイヤルについて

本製品は、郵政省令の定める技術基準に基づき、リダイヤルは 3分間に 2 回以内（ダイヤルした回数が計 3 回）に制限されています。引き続き同じ番号にかけるには、3 分経ってからダイヤルし直してください。

2 ハードウェアの設定

本製品に触れる前に、あらかじめ他の金属部分（水道の蛇口、ドアノブ等）に触れて体内の静電気を放電してください。この時、ガス管など発火する危険性のあるものには、絶対に触れないようにしてください。
本製品の内部には、最新のIC類が使用されています。ご使用中の静電気による故障対策はされていますが、他の機器との接続時などには、特に注意して下さい。お客様の不注意により生じた静電気等による故障等につきましては、保証の対象外となりますのであらかじめご了承ください。

稲妻が発生しているとき、本製品やケーブルの設置などの作業を行わないでください。落雷により、感電する恐れがあります。

スタンバイ状態への移行時、復帰状態への移行時に本製品やモジュラーケーブルの挿抜は行わないでください。また、スタンバイ状態からの復帰時、パソコンの機種によっては、本製品が正常に動作しないものがあります。スタンバイ状態への移行、復帰状態への移行につきましては、サポート対象外とさせていただきます。

2.1 CF カードの挿入・取り外し

Windows CE マシンでは、電源をオンにしたまま、カードの挿入・取り外しをすることができます。ただし、その場合にはいくつかの注意点があります。CF カードの挿入・取り外しを行うときは必ず、下記の手順に従って作業を進めてください。

CFカードの挿入・取り外しの際、Windows CEマシンの種類によってはイジェクトバーなどが挿入・取り外し操作に干渉することがありますのでご注意ください。

2.1.1 CF カードの挿入

1 Windows CE マシンの電源を入れてください。

2 CF カードの「corega」のロゴが印刷された面を上にして、本製品を CF カードスロットに水平に挿入し、カチッと手応えがあるまで差し込んでください。

カードスロットの位置はマシンによって異なります。間違って装着すると本製品やご使用になるWindows CEマシンの故障の原因になります。CFカード装着に関しては、必ずWindows CEマシンの説明書をご覧ください。

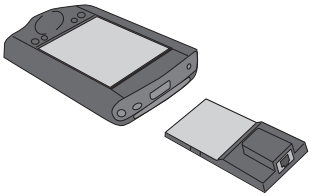


図 2.1.1-1　ポケット PC の場合（一例）

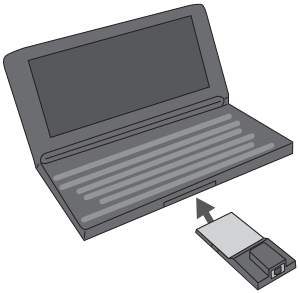


図 2.1.1-2　ハンドヘルド PC の場合（一例）

注意

ハンドヘルド PCの場合、次の画面が表示されることがあります。
「はい」を指定してください。「いいえ」を指定すると、本製品を使用できなくなりますので、ご注意ください。

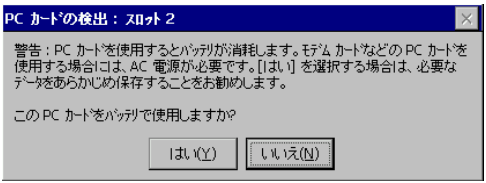


図 2.1.1-3　ハンドヘルド PC の場合（一例）

3　本製品をカードスロットに挿入すると、Plug & Play 機能によって、本製品が自動的に検出されます。

正しく挿入されたかどうかは、次の操作で確認できます。

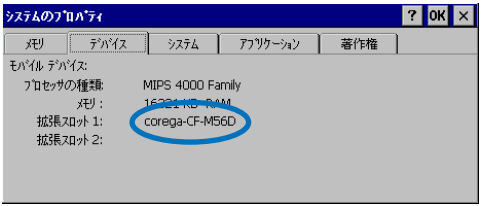
●ポケット PC の場合

「スタート」→「設定」→「システム」タブ→「バージョン情報」をタップします。CF カードが正しく挿入されていれば、「拡張スロット：使用中」と表示されます。

通信の設定をするとき、選択モデムに製品名まで表示されれば、完全に認識されています。

●ハンドヘルド PC の場合

「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」→「システム」と進み、「デバイス」タブをタップします。CF カードが正しく挿入されていれば、「拡張スロット 1 （または 2)」に本製品名が表示されます。



2.1.2 CF カードの取り外し

Windows CE では、Windows CE マシンの電源をオンにした状態で本製品をカードスロットから取り外すことができます。ただし、Windows CE マシンの電源がオンの状態で本製品を取り外すときは、必ず以下の手順で行ってください。

以下の手順を守らなかったときは、Windows CE マシンのハングアップやファイルの破壊を招く恐れがあります。また、以下の手順をお守りいただかないで起こった障害に関してはユーザーサポートの対象外とさせていただきます。

1 ネットワークと通信を行っているアプリケーションを全て切断してください。

2 Windows CE マシンから CF カードを取り外してください。

2.2 電話回線への接続

本製品を電話回線に接続する手順を説明します。

警告 稲妻が発生しているときは、本製品やケーブルの設置などの作業を行わないでください。落雷により感電する恐れがあります。

2

1 本製品付属のモジュラーケーブルの一方の端に付いたプラグを、本製品のRJ-11コネクターにカチッと音がするまで差し込みます。両端のプラグのどちらを差し込んでもかまいません。

2 モジュラーケーブルを引っ張ってみて抜けないことを確認してください。

3 モジュラーケーブルのもう一方の端のプラグを、ご使用の電話回線の屋内配線モジュラージャックに接続します。

モジュラーケーブルのRJ-11プラグは、プラグの爪を指で押えながら手前に引くと、抜くことができます。

注意 現在ご使用になっている電話がモジュラーケーブルで接続されていない場合は工事もしくは変換アダプターの取り付けが必要となります。工事は有資格者（工事担任者）のみが行えます。詳しくはお近くのNTTにお問い合わせください。なお、変換アダプターの取り付けには資格は必要ありません。

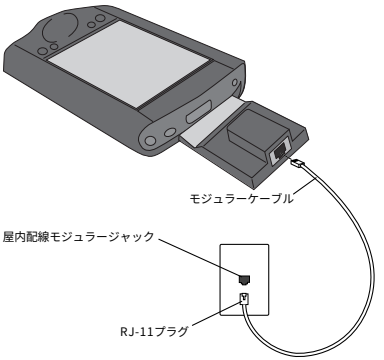


図 2.2-1 電話回線への接続

3 接続の準備

ここでは、接続の準備として「モデムの設定」「接続先電話番号の設定」「ダイヤル方法の設定」を行います。

ポケット PC とハンドヘルド PC では設定画面の表示が異なりますので、お使いになる方の説明をご覧ください。

■モデムの設定

お使いになるモデムの種類や通信速度を設定します。

- ポケット PC →「3.1.1 モデムの設定」
- ハンドヘルド PC →「3.2.1 モデムの設定と接続先電話番号の設定」

■接続先電話番号の設定

接続先の電話番号を設定します。

- ポケット PC →「3.1.2 接続先電話番号の設定」
- ハンドヘルド PC →「3.2.1 モデムの設定と接続先電話番号の設定」

インターネットに接続するためには、インターネット接続の入り口となるアクセスポイントが必要です。

一般的には、アクセスポイントを提供するプロバイダーに対して電話回線からダイヤルして接続します。

このため、アクセスポイントを提供するプロバイダーと加入契約を結んでおく必要があります。契約を結ぶと、アクセスポイントとなる電話番号のほかに接続アカウント（ID）、パスワードなどが提供されます。接続アカウント（ID）、パスワードはインターネットに接続するときに使用します。インターネットへの接続については「4 インターネットへの接続と切断」（p.33）をご覧ください。

■ダイヤル方法の設定

お使いになる電話回線の種類を設定します。電話回線の種類がわからない場合は「1.5.3 電話回線の種類」（p.10）をご覧ください。

- ポケット PC →「3.1.3 ダイヤル方法の設定」
- ハンドヘルド PC →「3.2.2 ダイヤル方法の設定」

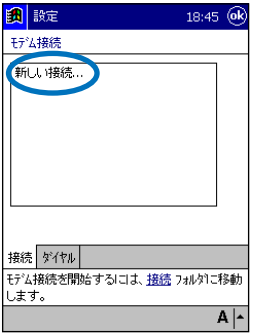
3.1 ポケット PC の場合

3.1.1 モデムの設定

ポケット PC では次の手順でモデムの設定を行います。

1 「スタート」→「設定」と進み、「接続」タブ→「モデム」をタップ※ します。

2 「新しい接続」をタップします。



3 「接続名」を入力します。
接続名は任意です。契約したプロバイダーの名前など、わかりやすいものをお薦めします。

※本操作説明書ではスタイラスペンにてメニューを選択することを「タップする」と言います。

* 本操作説明書ではスタイラスペンにてメニューを選択することを「タップする」と言います。

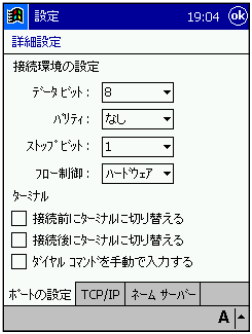
4 モデムを選択します。

▼をタップして、「corega-CF-M56D」を選択してください。

5 通信速度を指定します。

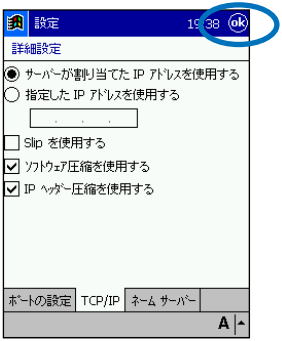
▼をタップして、CF モデムの通信速度を選択してください（例：115200 など）。

6 次に「詳細設定」をタップし、接続環境を確認します。



7 「TCP/IP」タブをタップします。

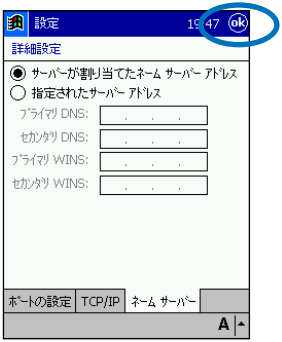
特に必要がなければそのままでかまいません。IP アドレスを変更する場合は、契約したプロバイダーの指示に従ってください。



この画面を閉じるには「OK」をタップします。

8 「ネームサーバー」タブをタップします。

特に必要がなければそのままでかまいません。変更する場合は契約したプロバイダーの指示に従ってください。確認後、「OK」をタップしてください。



9 「設定」画面に戻ります。

以上でモデムの設定が完了しました。

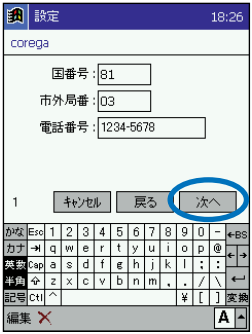
次に、接続先電話番号を設定します。

3.1.2 接続先電話番号の設定

ポケット PC では、次の手順で接続するプロバイダーの電話番号を設定します。

1 「3.1.1 モデムの設定」の手順 8 の後、「次へ」をタップします。

2 国番号、市外局番、電話番号を入力し、「次へ」をタップします。

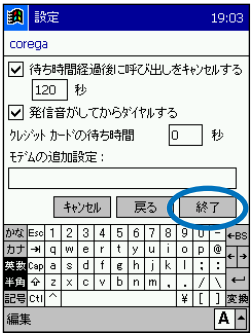


- 国番号　（81）日本
- 市外局番　アクセスポイントの市外局番
- 電話番号　アクセスポイントの電話番号（例：1234-5678、または 12345678）

注意

電話番号はお間違えのないように入力してください。

3 接続の条件を設定し、「終了」をタップします。



注意

PBX 回線 (構内交換機) をご利用になる場合は、「発信音がしてからダイヤルする」チェックボックスのチェックを外してください。
モデムのATコマンドを使用する場合は、「モデムの追加設定:」に入力してください。
AT コマンドについては弊社ホームページをご覧ください。
http://www.corega.co.jp/

接続先電話番号の設定が終了しました。
接続には、モデムの設定と電話番号の設定のほか、ご使用になる電話回線種別（トーン信号／パルス信号）の設定が必要です。「3.1.3 ダイヤル方法の設定」をご覧ください。

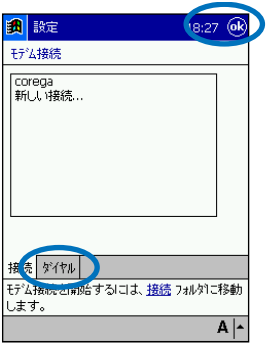
3.1.3 ダイヤル方法の設定

3

ポケット PC では、次の手順でダイヤル方法の設定を行います。

1 「スタート」→「設定」→「接続」と進み、「モデム」をタップします。

2 「ダイヤル」タブをタップします。



3 市外局番の入力や電話回線の種類（トーンまたはパルス）を設定します。
任意の名前の発信元を作成する場合は「追加」をタップすると、発信元の入力ができます。

ご使用になる電話回線の種類がわからない場合は「1.5.3 電話回線の種類」（p.10）をご覧ください。

注意

キャッチホン機能の解除については「1.5.4 キャッチホンについて」（p.10）をご覧ください。

4 「OK」をタップしてください。
これでダイヤル方法の設定が完了しました。

3.2 ハンドヘルド PC の場合

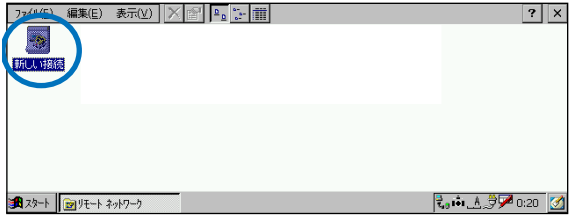
3.2.1 モデムの設定と接続先電話番号の設定

ハンドヘルド PC では、次の手順でモデムの設定と接続先電話番号の設定を行います。

1 「スタート」→「プログラム」→「通信」→「リモートネットワーク」とタップ※します。

2 「新しい接続」をダブルタップします。

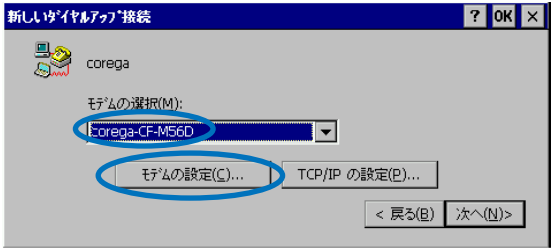
※本操作説明書ではスタイラスペンでメニューを選択することを「タップする」、2 度続けて「タップする」ことを「ダブルタップ」と言います。



3 「接続名」と「接続の種類」を入力します。ここでは接続名を「corega」として説明します。

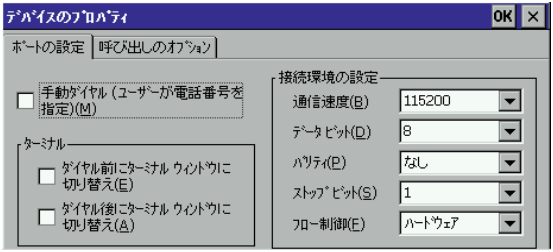
・接続名…名称は任意です。接続内容がわかるような名称をお薦めします。
・接続の種類…「ダイヤルアップ接続」をタップします。
入力したら「次へ」をタップします。

4 モデムを選択します。
▼をタップして「corega-CF-M56D」を選択します。



モデムを選択したら「モデムの設定」をタップします。

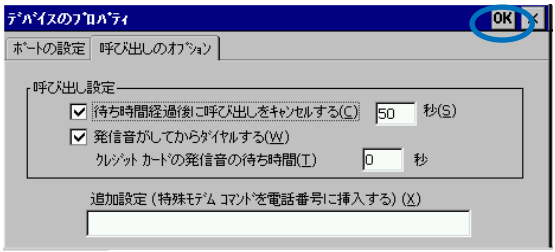
5 ポートの設定をします。



・通信速度… ▼をタップして、CF モデムの通信速度を選択してください(例：115200 など)。
・手動ダイヤル…接続の都度、電話番号を指定する時にチェックします。

他の項目は、必要がなければそのままにしておいてください。
設定したら「呼び出しのオプション」タブをタップします。

6 呼び出し時のオプションを設定します。



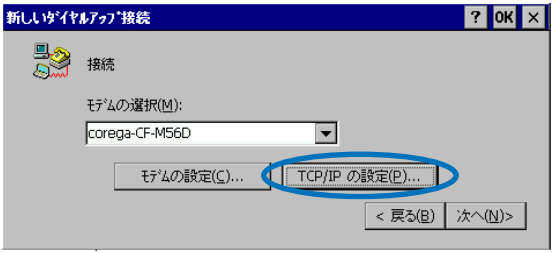
設定したら「OK」をタップし、「新しいダイヤルアップ接続」画面に戻ります。

3

注意

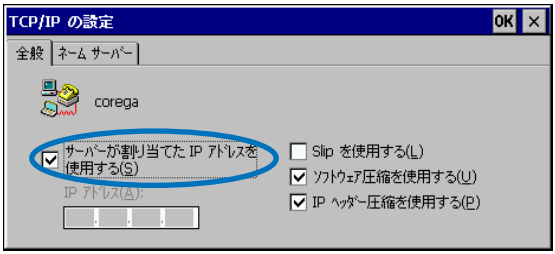
モデムの AT コマンドを使用する場合は、「追加設定 (特殊ﾓﾃﾞﾑｺﾏﾝﾄﾞを電話番号に挿入する」に入力 してください。
AT コマンドについては弊社ホームページをご覧ください。
http://www.corega.co.jp/
PBX 回線 (構内交換機) をご利用になる場合は、「発信音がしてからダイヤルする」チェックボックスのチェックを外してください。

7 「TCP/IP の設定」をタップします。

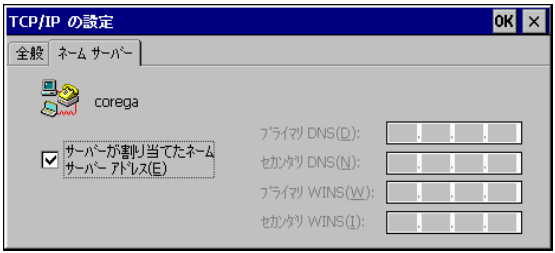


8 IP アドレスの設定をします。

この設定は、変更の必要がなければ、「サーバーが割り当てた IP アドレスを使用する」にチェックしたままにしておいてください。ご契約のインターネットプロバイダーより「IP アドレス」を通知されている場合は「サーバーが割り当てた IP アドレスを使用する」のチェックをはずし、「IP アドレス」を入力してください。



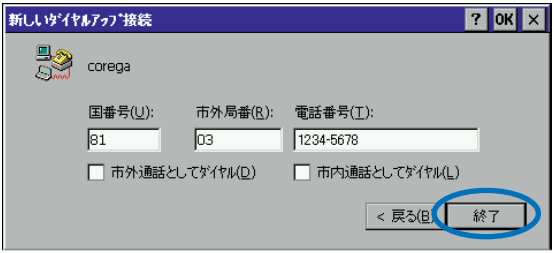
9 次に「TCP/IP の設定」画面の「ネームサーバー」タブをタップします。
プロバイダーより「ネームサーバー」を通知されている場合は「サーバーが割り当てたネームサーバーアドレス」のチェックをはずし、プライマリ DNS 等の IP アドレスを入力してください。詳細につきましては、ご契約のプロバイダーにお問い合わせください。



「OK」をタップします。

「新しいダイヤルアップ接続」画面に戻りますので、「次へ」をタップします。

10 接続先電話番号を入力し、「終了」または「OK」をタップします。

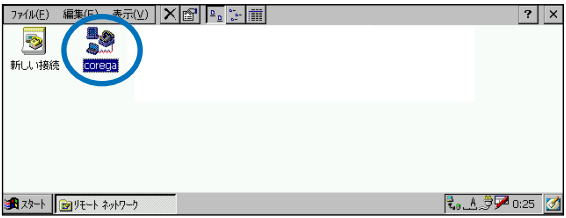


・国番号　（81）日本
・市外局番　アクセスポイントの市外局番
・電話番号　アクセスポイントの電話番号（例：1234-5678、または 12345678）

注意

電話番号はお間違えのないように入力してください。間違えたまま設定を終了した場合は、はじめから（モデムの設定で、再度新しい接続名をつける）やり直してください。

11 設定した接続名が画面に表示されます。



以上でモデムの設定と接続先電話番号の設定が完了しました。

インターネットに接続するためには、モデムの設定と電話番号の設定のほか、ご使用になる電話回線種別（トーン信号／パルス信号）の設定（ダイヤル方法の設定）が必要です。次項をご覧ください。

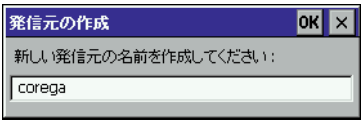
3.2.2 ダイヤル方法の設定

ハンドヘルド PCでは、次の手順でダイヤル方法の設定を行います。

1 「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」と進み、「ダイヤル」をダブルタップします。

2 電話回線の設定をします。
発信元を新しく作成する場合は「追加」をタップしてください。既に登録してある場合は「発信元」を選択してください。

「追加」をタップすると、「発信元の作成」画面が表示されます。発信元の名前を入力し、「OK」をタップします。
・発信元の名前…名称は任意です。わかりやすい名前をお薦めします。



「ダイヤルのプロパティ」画面が表示されますので、次の項目を入力します。

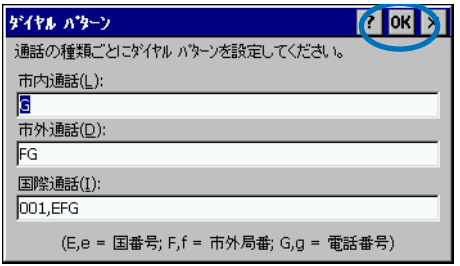
・市外局番…アクセスポイントの市外局番
・国番号…（81）日本
・ダイヤル方法…トーンまたはパルス
ご使用になる電話回線の種類がわからない場合は「1.5.3 電話回線の種類」をご覧ください。

注意

キャッチホン機能の解除については「1.5.4 キャッチホンについて」（p.10）をご覧ください。

3

3 「ダイヤルのプロパティ」画面で「ダイヤルパターン」ダブをタップします。



変更の必要がなければ、そのままにしておいてください。

4 「OK」をタップします。
これでダイヤル方法の設定が完了しました。

4 インターネットへの接続と切断

インターネットに接続する手順をポケット PC、ハンドヘルド PC についてそれぞれご説明します。ただし、ここにあげる例は一例であり、お客様の環境によっては、手順や表示される画面が異なる場合があることをご了承ください。

4.1 インターネットへの接続

インターネットに接続するためには、インターネットの入り口となるアクセスポイントを使用します。

アクセスポイントを提供するプロバイダーと契約し、お客様がお使いになるモデムやアクセスポイントの電話番号を設定しておく必要があります。設定のしかたについては「3　接続の準備」をご覧ください。

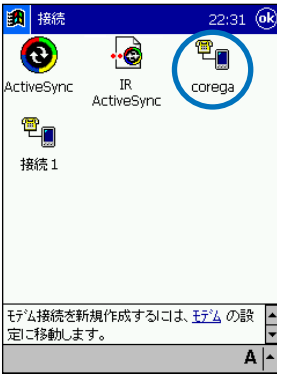
また、インターネットへの接続には接続アカウント（ログイン名）やパスワードが必要です。プロバイダーから通知された接続アカウント（ログイン名）やパスワードをご確認ください。

4.1.1 ポケット PC での接続

1 「スタート」→「プログラム」→「接続」とタップします。

2 接続の種類を選択します。
どの接続方法を使用するか、接続名のアイコンをタップします。

画面は複数の接続方法を設定している例です。1 つしか設定していない場合は、1 つの接続名のみ表示されます。

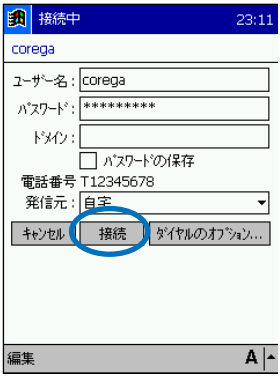


3 ユーザー名やパスワードを入力します。

- ユーザー名 ... プロバイダーから通知された、接続アカウント（ログイン名）を入力します（画面例では corega）。
- パスワード ... プロバイダーから通知されたパスワードを入力します。

注意

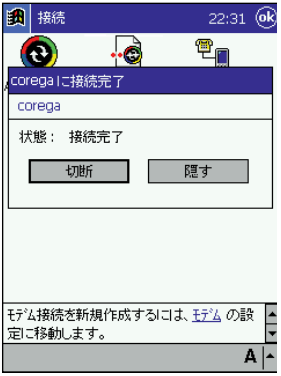
ユーザー名およびパスワードは、大文字／小文字の区別がありますので、入力の際にはご注意ください。パスワードは入力すると「*」で表示されます。また、「パスワードの保存」をタップするとパスワードが入力欄に記憶されます。



4

4 「接続」をタップします。
インターネットへの接続が開始されますと、次の画面が表示されます。

・「キャンセル」…接続をキャンセルします。
・「隠す」…接続の状態を示す画面表示がされなくなります。
さらに接続が完了すると次の画面が表示されます。



・「切断」…インターネット接続が切断されます。
・「隠す」…接続の状態を示す画面表示がされなくなります。

注意 「隠す」をタップした場合、接続状態を示す画面が表示されなくなります。状態の確認または切断をする場合は「4.2.1 ポケット PC の場合の切断」を参照してください。

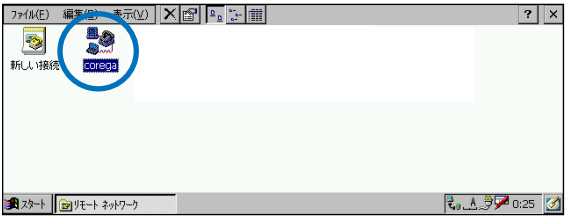
5 接続が完了すると、WWW ブラウザやメールソフトなどのインターネットアプリケーションソフトがお使いになれます。お使いになるアプリケーションソフトの説明書をご覧ください。

次の画面は Internet Explore で corega のホームページにアクセスした例です。
操作は「スタート」→「Internet Explorer」と進み、corega の URL を入力します。
http://www.corega.co.jp/

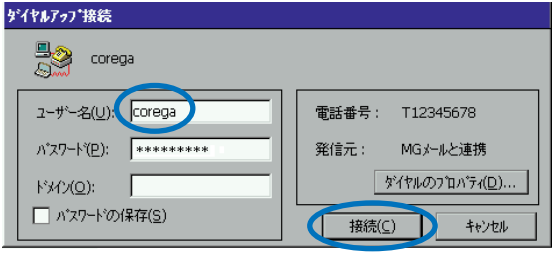
4

4.1.2 ハンドヘルド PC での接続

1 「スタート」→「プログラム」→「通信」→「リモートネットワーク」と進み、接続する名称のアイコンをダブルタップします。



2 ユーザー名、パスワードを入力します。



・ユーザー名 ... プロバイダーから通知された、接続アカウント（ログイン名）を入力します（画面例では corega）。

・パスワード ... プロバイダーから通知されたパスワードを入力します。

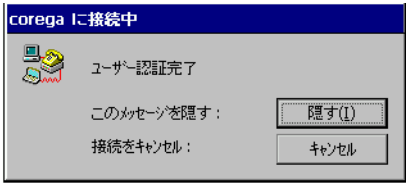
4

注意

ユーザー名およびパスワードは、大文字／小文字の区別がありますので、入力の際にはご注意ください。パスワードは入力すると「*」で表示されます。また、「パスワードの保存」をタップするとパスワードが入力欄に記憶されます。

3 「接続」をタップします。

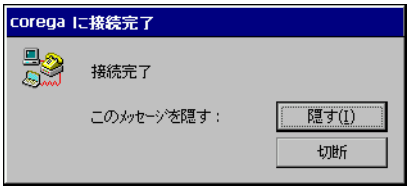
インターネットへの接続が開始されますと、次の画面が表示されます。



・「キャンセル」…接続をキャンセルします。

・「隠す」…接続の状態を示す画面表示がされなくなります。

さらに接続が完了すると次の画面が表示されます。



・「切断」…インターネット接続が切断されます。
・「隠す」…接続の状態を示す画面表示がされなくなります。

注意

「隠す」をタップした場合、接続状態を示す画面が表示されなくなります。状態の確認または切断をする場合は「4.2.2 ハンドヘルド PC の場合の切断」を参照してください。

4

4 この時点から、WWW ブラウザやメールソフトなどのインターネットアプリケーションソフトがお使いになれます。お使いになるアプリケーションソフトの説明書をご覧ください。
次の画面は corega のホームページにアクセスした例です。
操作は「スタート」→「プログラム」→「Internet Explorer」と進み、corega の URL を入力します。

http://www.corega.co.jp/

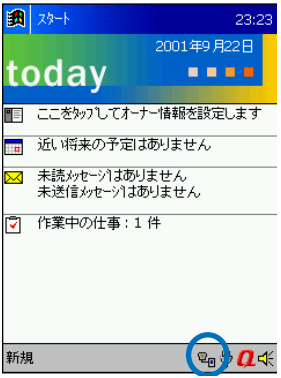
4.2 接続の切断

インターネットへの接続を終了するときは、必ず電話回線の接続を切断してください。この作業を行わない場合、電話回線の接続が継続されることになり、予想以上の通信料金を請求されることがありますので、ご注意ください。

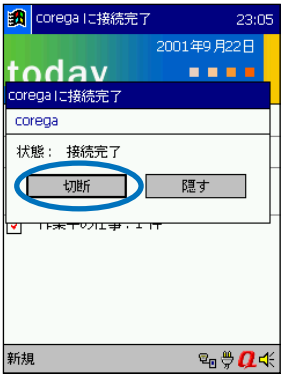
4.2.1 ポケット PC の場合の切断

・「接続完了」画面を「隠す」にしている場合

1 「スタート」→「Today」とタップし、「接続アイコン」をタップします。

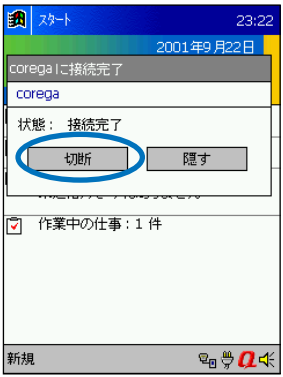


2 「切断」をタップします。



・「接続完了」画面を「隠す」にしていない場合

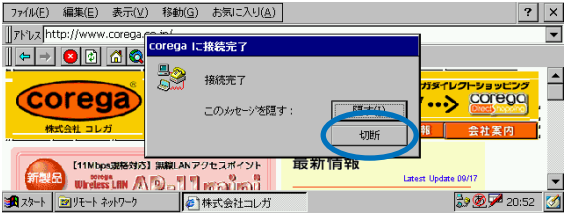
1 「スタート」→「Today」とタップすると「接続完了」画面が表示されますので、「切断」をタップして回線の接続を切断します。



4.2.2　ハンドヘルド PC の場合の切断

1　タスクトレイの「接続アイコン」をダブルタップします。

2　「接続完了」画面が表示されますので「切断」をタップします。



5 トラブルシューティング

5.1 ドライバーのトラブル

- カードスロットに挿入した場合に、「この PCカードをバッテリーで使用しますか？」が表示されることがありますが、「いいえ」を選択すると、本製品の認識ができなくなります。その場合、ご使用の Windows CE マシン付属の操作説明書をお読みになるかまたはメーカーにお問い合わせください。
- Windows CE マシンの機種によっては、本製品をカードスロットに挿入するときに、挿しにくい場合もありますが、本製品は、カードスロットの奥までしっかりと押し込むようにしてください。（奥までしっかり挿されていないと、本製品が認識されないことがあります。）

5.2 通信がうまくいかない

- **電話回線との接続は正しく行われていますか？**

  → 「2.2 電話 回線への接続」(P.16）をご覧の上、接続を再確認してください。

- **回線の仕様がアナログ一般公衆回線と異なっていませんか？**

  → 本製品はNTTのアナログ一般回線専用に作られています。構内交換機 (PBX)などをご使用の場合は「X3」コマンドを実行すると接続できる場合もあります。

  また、構内交換機 (PBX) を使用している場合、回線の品質の影響で通信が切断される場合があります。

- **相手が通信中ではありませんか？**

  → しばらくしてダイヤルし直してください。

- **３分間に４回以上ダイヤルしていませんか？**

  → 本製品は、郵政省の定める技術基準に基づき、リダイヤルは３分間に２回以内（ダイヤルした回数が計3回）に制限されています。 3分経ってからダイヤルし直してください。

- **電話番号が間違っていませんか？**

  → 電話番号が間違っていないか確認してください。

- **電話回線の種類の設定が間違っていませんか？**

  → お使いの電話回線の種類（トーンとパルス）の設定が間違っていると正しくダイヤルできません。電話回線の種類について詳しくは、「1.5.3 電話回線の種類」(P.10）を参照してください。

- **実行不能なコマンドを入力していませんか？**

  → AT コマンドの書式が正しいか確認してください。

  AT コマンドに関しては弊社ホームページをご覧ください。

  http://www.corega.co.jp/

- **キャッチホンサービスを利用していませんか？**

  → NTT のキャッチホンサービス「(キャッチホン Ⅱ」ではありません。）を受けている場合、データ通信の最中に電話がかかってきた場合にはキャッチホンの呼び出し音により、接続が絶たれてしまいます。データ通信に使用する回線はキャッチホンを受けて いないものを使用するか、あるいは「キャッチホン Ⅱ」をご利用ください。
  「キャッチホン Ⅱ」使用時の設定については「1.5.4 キャッチホンについて」(P.10)を参照ください。

5

5.3 56000bps で通信できない

- **プロバイダーが V.90 に対応していますか？**

  → プロバイダーが V.90に対応していますか？
  接続先のプロバイダーが V.90に対応していないと 56000bps での通信はできません。

- **回線品質が影響しています。**

  → 理論上、プロバイダー側からユーザー側への最高通信速度は 56000pbs ですが、ご使用になる回線の品質（ノイズ等）、また構内交換機（PBX）を使用していると通信品質の問題により、最高速度で通信できない場合があります。

5.4 文字化けが起こる

- **電気的なノイズはありませんか？**

  → 非エラー訂正モードで使用中に電気的なノイズが発生するものが周囲にある場合、このような現象が起こります。

- **エラー訂正モードにしてください。**

  → エラー訂正モードに変更するだけで解決する場合も多くあります。

- **電話回線を一旦切断してください。**

  → 文字化けは、品質のよくない回線を経由している場合にも起こります。一旦切断して再び電話をかけるとこの状態を避けられることがあります。

- **通信パラメーターの不整合はありませんか？**

  → 相手側モデムと同じ設定にして下さい。

- **フロー制御の設定は正しいですか？**

  → フロー制御の設定は正しく設定されていないと文字化けが発生することがあります。フロー制御は、通信ソフトや接続先ホストコンピューターの指示に従ってください。フロー制御は、以下の画面で設定できます。
  ・ハンドヘルド PC の場合
  「セッションのプロパティ」－「デバイスのプロパティ」の「ポートの設定」タブをクリックし、「接続環境の設定」で設定できます。
  ・ポケット PC の場合
  「設定」-「接続」-「モデム」で接続先を設定し、「詳細設定」で設定できます。

5.5 モデムがコマンドを実行しない

- **コマンドの書式はあっていますか？**

  → AT コマンドの書式が正しいか確認してください。
  AT コマンドに関しては弊社ホームページをご覧ください。

  http://www.corega.co.jp/

5.6 電話がかかってきてもモデムが応答しない

- **手動受信に設定されていませんか？**

  → 手動受信に設定しているときに電話（"RING"）に応答するには ATA コマンドを使用するか、あるいは S0 レジスタで自動受信に設定してください。

5.7 インターネットに接続できない

インターネットに接続できない場合は、以下のことを確認してください。

- **モデムの設定が正しくされているか**
  「3 接続の準備」（p.17）を参照してください。

- **ダイヤルアップネットワークの登録内容は正しいか**

- **TCP/IP の設定が正しくされているか**
  「3 接続の準備」(p.17) を参照してください。

- **WWW ブラウザーやメールソフトの設定が正しくされているか**
  →ご使用のソフトウェアのマニュアルを参照するなどして、正しく設定されているか確認してください。

付録

A 製品仕様

一般仕様		
対応OS	Windows CE3.0（PocketPC/Handheld PC2000）	
対応機種	コンパクトフラッシュカードスロット搭載のPDA、ハンドヘルドPC	
ハードウェア仕様		
PCインターフェース	CF+ ／ CompactFlash Rev1.4 Type I 準拠	
電話回線インターフェース	２線式モジュラージャック（RJ-11）	
ダイヤル方式	パルスダイヤル（10/20pps）式、トーンダイヤル（DTMF）式	
機械的仕様		
本体寸法	88.0（W）× 42.8（D）× 14.8（H）mm（突起部分含まず）	
本体重量	30.6g	
電気的仕様		
動作電圧	PC カードインターフェースからの供給 DC+3.3V	
消費電流	最大 250mA	
消費電力	最大 825mW	
環境条件		
動作時	温度 0 ～ 40 ℃（CF カードの周囲温度）※ 1、湿度 80%以下で結露がないこと	
保管時	温度 -20 ～ 60 ℃、湿度 95%以下で結露がないこと	
取得承認	VCCI クラス B、技術基準適合認定	
モデム仕様		
適用回線	アナログ一般公衆回線	
NCU 制御コマンド	データ通信	ヘイズ AT コマンド準拠

データ通信部	通信方式	全二重
	同期方式	調歩同期式（非同期）
	通信規格	データ通信：ITU-T V.90/V.34/V.34+/V.32bis/ V.23/V.22bis/V.22/Bell 212A/ 103/V.21 エラー訂正：ITU-T V.42、MNP 2-4
	通信速度	最大 56,000bps（受信）、最大 33,600bps（送信）

※本製品（FC カード）の周囲温度であり、コンピューターの周囲温度ではありません。

B 電話回線インターフェース

本製品付属のモデム用モジュラーケーブルは RJ-11型と呼ばれるモジュラープラグを使用しています。

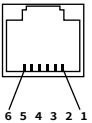


図 B-1 電話回線モジュラージャック

(1) --- 未使用
(2) --- 未使用
(3) RING
(4) TIP
(5) --- 未使用
(6) --- 未使用

付

C 用語集

AA/MA/MM/AM

着信・発信のモードです。

AA（Auto Dial / Auto Answer）
自動発信・自動着信のこと。"AA" ランプのあるモデムでは電話が鳴る度にランプが点滅します。

MA (Manual dial / Auto answer)

手動発信・自動着信のこと。発信は電話機で電話をかける手動操作で行い、着信はモデムなどの自動処理による方式。

MM (Manual dial / Manual answer)
手動発信・手動着信のこと。

AM (Auto dial / Manual answer)
自動発信・手動着信のこと。

AT コマンド

アメリカの Hayes 社が開発した、モデムを制御するためのコマンド。事実上の標準規格となっています。コンピューターからモデムへの命令を「コマンド」と呼び、モデムからコンピューターへ返される文字列を「リザルトコード」と呼びます。

ITU-T (International Telecommunication Union - Telecommunication sector)

国際電気通信連合 (ITU) の一機関である「電気通信標準化センター」の略称です。データ通信に関する各種の国際的な規格の制定を主な業務としています。旧名称は CCITT といい、1993 年の組織改定により名称が変わりました。

NCU (Network Control Unit)

「網制御装置」と訳します。電話回線に対して DCE を接続する装置で、電話回線に関する制御を行う部分です。外国では DAA と呼びます。電話回線に応じてトーン信号・ダイヤルパルス信号を切り替えて送る、電話回線のオンフック・オフフックを行うといった機能があります。

V.90

56000bps での通信速度を可能にした、ITU-T により規格されたモデムによるアナログ通信規格です。56000bps は、下り方向（プロバイダーからユーザーへ）のみで可能な理論値であり、実際の通信速度とは異なります。上り方向（ユーザーからプロバイダーへ）での最高通信速度は、33600bps です。

通信規格

装置（この場合モデム）の間でデータのやりとりを行うための決まりのことです。

非同期通信（調歩同期式）

正確には「同期クロックを用いないで行う通信」の意味ですが、一般には調歩同期方式による通信をこう呼びます（同期を取っていない訳ではありません）。単位送信データの始めと終わりにスタートビット／ストップビットと呼ばれる目印を付け加えます。

D 保証と修理について

■保証について

本書に記載されている「製品保証規定」を必ずお読みになり、本製品を正しくご使用ください。無条件で本製品を保証するということではありません。正しい使用方法で使用した場合のみ、保証の対象となります。また、物理的な破損等が見受けられる場合は、保証の対象外となりますので予めご了承ください。本製品（ドライバーディスクは除く）の保証期間については、保証書に記載されている保証期間をご覧ください。

■修理について

故障と思われる現象が生じた場合は、まず取扱説明書を参照して、設定や接続が正しく行われているかを確認してください。現象が改善されない場合は、巻末の「調査依頼書」をコピーしたものに必要事項をご記入の上、保証書を添付し、弊社サポートセンター宛てに製品を送付ください。製品を送付する際は、以下の点にご注意ください。

- 弊社サポートセンターへ製品を送付する際の送付料金につきましては、お客様のご負担とさせていただきます。尚、運送中の故障や事故に関しては、弊社はいかなる責任も負いかねますので、予めご了承ください。
- 宅配便など の送付状の控えが残る方法で送付願い ます。（普通郵便による送付は、固くお断りいたします。）
- 修理期間は、製品到着後、約 10 日程度（弊社営業日数）を予定しております。
- 誠に申し訳ございませんが、直接来社されてのサポート依頼は受付けておりませんので、製品は必ず宅配便などでお送りください。

■製品送付先

〒 222-0033　横浜市港北区新横浜 1-19-20

（株）コレガ　coregaサポートセンター宛

E ユーザーサポート

障害回避などのユーザーサポートは、巻末の「調査依頼書」をコピーしたものに必要事項をご記入の上、下記の番号まで FAX してください。できるだけ電話による直接の問い合わせは避けてください。FAX によって詳細な情報を送付していただくほうが、電話による問い合わせよりも遥かに早く問題を解決することができます。記入内容の詳細は、「調査依頼書の記入について」をご覧ください。

Tel: 045-476-6268　10:00-12:00、13:00-17:00　月～金（祝・祭日を除く）

Fax: 045-476-6294

E.1 調査依頼書の記入について

調査依頼書は、お客様のご使用環境で発生した様々な障害の原因を突き止めるためにご記入いただくものです。障害を解決するためにも以下の点にそって、十分な情報をお知らせください。記入用紙で書き切れない場合には、別途プリントアウトなどを添付してください。

■ハードウェアとソフトウェア

- 本アダプター上に貼られたラベルに記入されているシリアル番号 (S/N)、製品リビジョンコード (Rev) を調査依頼書に記入してください。

(例)

- ご使用になっているソ フトウエアの種類／バージョン（Ver.）を記入してください。これらは、ドライバーディスクのラベル上に記入されています。
- 他社のインター フェースボード やユーティリティ ーをご使用の場 合は全てご記入ください。
- 接続しているサーバーの機種とその環境も可能な限りご記入ください。

■お問い合わせ内容について

- どのような症状が発生するのか、それはどのような状況で発生するのかを出来る限り具体的に（再現できるように）記入してください。
- エラーメッセージやエラーコードが表示される場合には、表示されるメッセージの内容をプリントアウトしたものなどを添付してください。
- 障害などが発生する場合には、本製品と併用されているユーティリティーや、アプリケーションの処理内容もご記入ください。

■周辺機器構成について

- ･本製品を使用するために接続されている他の周辺機器（モニターやマウス、キーボード等)やご使用Windows CEマシンの接続状況がわかる簡単な図を添付してください。
- ･ご使用の周辺機器のメーカー名、機種名、バージョンなどを必ずご記入ください。

E.2 最新ドライバーの入手方法

弊社は、改良のために予告なく、本製品についてのドライバーの追加、バージョンアップまたはパッチレベルアップを行うことがあります。最新のドライバーは、弊社のホームページから

入手することができます。また、このホームページでは FAQ、パソコンの動作検証リストなどの情報もご案内しておりますので、ぜひご覧ください。

1 Microsoft Internet Explorer、Netscape Navigatorなどの Web ブラウザーを使用して、次のアドレスにアクセスしてください。

http://www.corega.co.jp/

2 「ダウンロード」→「各種ドライバ」をクリックしてください。

3 ご希望のドライバーをクリックしてください。

E.3 「corega Net-News」のご案内

「corega Net-News」は、株式会社コレガがお届けするメール配信サービスです。新製品情報やキャンペーン、プレゼント情報など耳よりな情報をお届けいたします。メール配信サービスをご希望のお客様は、corega ホームページでご登録ください。なお、メール配信サービスはどなたでもご登録いただけます。

おことわり

- 本書は、株式会社コレガが作成したもので、全ての権利を弊社が保有しています。弊社に無断で本書の一部または全部をコピーすることを禁じます。
- 予告なく本書の一部または全体を修正、変更することがありますがご了承ください。
- 改良のため製品の仕様を予告なく変更することがありますがご了承ください。
- 本製品の内容またはその仕様により発生した損害については、いかなる責任も負いかねますのでご了承ください。

© 2001 株式会社コレガ

corega は、株式会社コレガの登録商標です。

Windows は、米国 Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。

その他、この文書に掲載しているソフトウェアおよび周辺機器の名称は各メーカーの商標または登録商標です。

2001年　10月　　Rev.A　　初版

調査依頼書（corega CF-M56D 1/2）

年　月　日

一般事項

1. 会社名（個人名）：　　フリガナ：
   部署名：　　ご担当者：
   ご連絡先住所：〒
   TEL: (　　)　　FAX: (　　)
2. 購入先：　　購入年月日：
   購入先担当者：　　購入先 TEL: (　　)

ハードウェアとソフトウェア（問題解決のため詳しく記入してください）

1. ご使用のカードのシリアル番号、製品リビジョン

   製品名：corega CF-M56D　S/N＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ Rev＿＿

2. パソコン
   メーカー名
   機種名
3. ご使用の通信ソフト名：
4. 周辺機器および他の PC カード使用の有無

5. 電話回線
   □トーン（プッシュ回線）　□パルス（ダイヤル回線）　□キャッチホン
   □ ISDN-TA 経由　　□その他（　　）

お問い合わせ内容

□別紙（あり・なし）
□設置中に起こっている障害
□設置後運用中に起こっている障害
□はじめから動作しない
□以前は使用できたが、突然使用できなくなった
□別の Windows CE マシンでは動作（可・不可）
□別の通信ソフトでは動作（可・不可）
□その他（具体的に記入してください）

調査依頼書（corega CF-M56D 2/2）

年　月　日

お問い合わせ内容

製品保証規定

■ この製品保証規定は、製品保証書に明記した期間内において、取り扱い説明書などにしたがった正常な使用をしていたにもかかわらず故障が発生した場合に、無償修理をお約束するものです。

- 本製品本体：製品保証書に記載の“保証期間”で無償保証とします。（ただし、本規定の他の条項に準じます。）
- 本体付属品：3ヶ月間保証

■ 保証期間内の無償修理は、故障製品を弊社までお送りいただき、修理完了品または代替品をお客様に返送することとします。表面の製品保証書に記載された「製品保証に関するお問い合わせ先」まで故障製品を送付してください。送料はそれぞれ送付元負担とさせていただきます。

■ 保証期間内であっても次の項目に該当する場合は、無償修理の適用外とさせていただきます。（ただし、無償修理の適用外であっても有料での修理または代替品への交換・サービスはご利用いただけます。）

1. 使用上の誤り、または不当な修理や改造によって生じた故障および損傷
2. お買い上げ後の輸送、移動、落下などによって生じた故障および損傷
3. 火災、地震、水害、落雷、その他の天変地異、公害、塩害、静電気、異常電圧などの外部要因によって生じた故障および損傷
4. 接続された他の機器が原因で生じた故障および損傷
5. 車両、船舶などに搭載されたことによって生じた故障および損傷
6. 消耗品の交換（バックアップ電池など）
7. 製品保証書の提示がない場合
8. 製品保証書の所定事項に記入がない場合、または字句を不当に書き換えられた場合

■ 本ハードウェアが他社の提供するソフトウェア、またはアプリケーション・ソフトウェアと共有できるという動作保証、および使用によるその他の損害についての保証は行いません。

■ 修理によって交換された代替品、不良部品の所有権は弊社に帰属するものとします。

■ 製品保証規定は、本製品についてのみ無償修理をお約束するもので、本製品の故障または使用によるその他の損害については、弊社はその責を一切負わないものとします。

■ 製品保証書は、日本国内のみで有効です。

■ 製品保証書は再発行いたしませんので紛失しないように大切に保管してください。

製品保証書（1年保証）

この製品保証書は、株式会社コレガが定める製品保証規定（裏面）に基づき、製品の無償修理をお約束するものです。

製品名　corega CF-M56D

シリアル番号
（S/N）

ご購入日

製品保証に関するお問い合わせ先

coregaサポートセンター
〒222-0033 横浜市港北区新横浜 1-19-20

TEL：045-476-6268
受け付け時間：10:00～12:00/13:00～17:00
月～金（祝・祭日を除く）

FAX：045-476-6294

販売店様印

※ 本保証書にお買い上げ販売店の記名及び押印が無い場合は、有償扱いとなりますので予めご了承ください。
※ 製品名、シリアル番号、ご購入日をご記入ください。